

2019.09.15~19

福岡市西区・今津干潟

ソリハシシギ、キアシシギ、ホウロクシギ、カブトガニ、アオサギ



ソリハシシギ(反嘴鷗)  
シギ科 L=23cm



キアシシギ(黄足鷗)  
シギ科 L=25cm



ホウロクシギ(烙烙鷗)  
シギ科 L=63cm



カブトガニ(甲冑、兜蟹、扇蟹)  
鱗角類門 節足動物



毘沙門山(びしゃもんやま)177m

17:00



アオサギ(蒼鷺)  
サギ科 L=93cm

2019.09.15

嘴が上に  
反り返っている

ソリハシシギ(反嘴鷸)  
シギ科 L=23cm



ミサゴ(鷲) ワシタカ科 L=メス64cm



カワウ(河鷯) ウ科 L=82cm



イソギ(磯鷗) シギ科 L=20cm



ダイサギ(大鷺) サギ科 L=90cm



ハウロクシギ(焙烙鷗) シギ科 L=63cm



ハウロクシギ(焙烙鷗) シギ科 L=63cm



チュウシャクシギ(中杓鷗)シギ科 L=42cm



ヒドリガモ(埴島鴨)メス ガンカモ科 L=49cm



13:08  
毘沙門山(びしゃもんやま)177m

2019.09.18



タイサギ(大鷺)  
サギ科 L=90cm



イノシギ(磯鷗)  
シギ科 L=20cm




キアシシギ(黄足鷗)  
シギ科 L=25cm

脚が黄色



アオアシシギ(蒼脚鷗)  
シギ科 L=35cm

カルガモ(軽鴨)  
ガンカモ科 L=61cm

A group of ducks and a grebe are gathered in a shallow pond. The ducks have brown and black feathers with orange feet. The grebe is smaller and has a long neck. The water is dark blue and reflects the birds. The background is a dark blue sky.

アオアシシギ(蒼脚鷗)  
シギ科 L=35cm

カルガモ(軽鴨) ガンカモ科 L=61cm

16:56



マガモ(真鴨) オス  
ガンカモ科 L=59cm



マガモ(真鴨)オス  
ガンカモ科 L=59cm



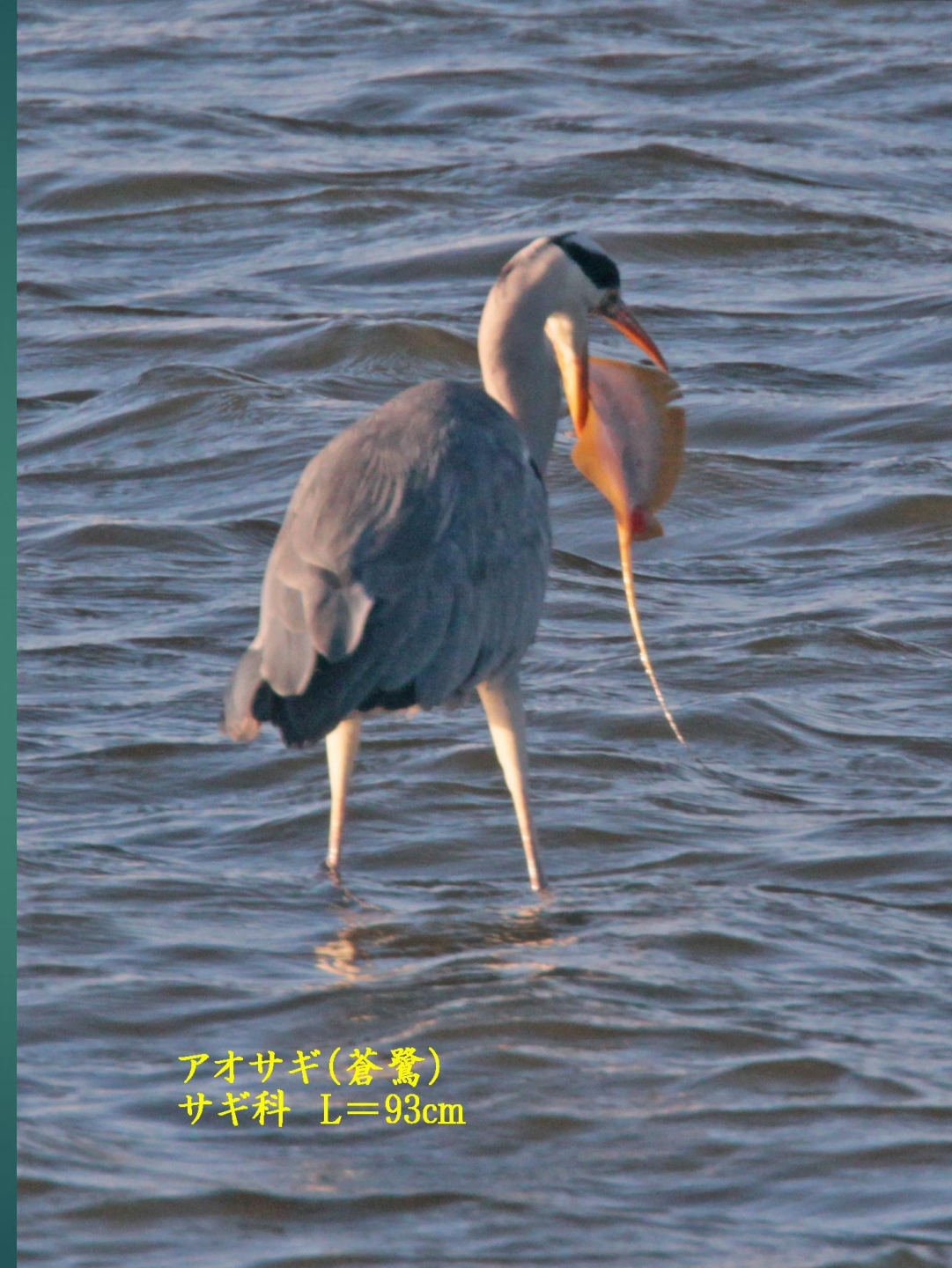
カルガモ(軽鴨)  
ガンカモ科 L=61cm



A blue heron stands in shallow water, holding a fish in its long, pointed beak. The fish is held vertically, with its head at the top and its tail pointing downwards. A red speech bubble is positioned above the fish, containing the Japanese characters 'エイ' (Ei), which translates to 'Eel'. The heron's body is a mix of grey and blue, with a black stripe running through its eye.

エイ

アオサギ(蒼鷺)  
サギ科 L=93cm

A blue heron stands in shallow water, holding a fish in its long, pointed beak. The fish is held vertically, with its head at the top and its tail pointing downwards. The heron's body is a mix of grey and blue, with a black stripe running through its eye.

アオサギ(蒼鷺)  
サギ科 L=93cm



トビ(鷹)  
ワシタカ科 L=64cm

ヒシボソガラス(嘴細鴉)  
カラス科 L=50cm



トビ(鳶) ワシタカ科 L=64cm



イソシギ(磯鷗) シギ科 L=20cm



9:47  
可也山(かやさん)365m

2019.09.19



ソリハシシギ(反嘴鷗)  
シギ科 L=23cm



ソリハシシギ(反嘴鷗)  
シギ科 L=23cm



ソリハシシギ(反嘴鷗)  
シギ科 L=23cm



ソリハシシギ(反嘴鷗)  
シギ科 L=23cm



ミサゴ(鶺鴒) ワシタカ科 L=メス64cm



ホウロクシギ(焙烙鶺鴒)  
シギ科 L=63cm



ホウロクシギ(焙烙鶺鴒)  
シギ科 L=63cm



マガモ(真鴨)  
ガンカモ科 L=59cm



オナガガモ(尾長鴨)  
ガンカモ科 L=メス53cm



ヒドリガモ(緋鳥鴨)メス  
ガンカモ科 L=49cm



ヒドリガモ(緋鳥鴨)  
ガンカモ科 L=49cm





カブトガニ(甲蟹、兜蟹、蟹、鱧魚)鉄角亜門・カブトガニ目

カブトガニは背面全体が広く背甲で覆われ、脚などの付属肢はすべてその下に隠れている。名前はこの背甲に由来し、またその姿の類似からドンガメ、マンゴエイなどの地方名もある。

日本では古くは瀬戸内海に多かった。取り立ててなんの役にも立たず、図体がでかく漁では網を破るなど嫌われたようである。しかし、カブトガニは古生代の仲間の風貌を色濃く残した「生きている化石」であり、学術的な面から貴重であるとして天然記念物の指定を受けた場所もある。近年では環境汚染や埋め立てによって各地でその数を激減させている。

本種およびカブトガニ類は「カニ」と名づけられてはいるが、クモやサソリなどが含まれる鋏角類に分類され、甲殻類であるカニとは全く別の節足動物である。（出典：ウィキペディア）

カブトガニは、今から5億年以上も前にさかえた三葉虫（さんようちゅう）に、もっとも近い現存の動物と考えられています。また、カブトガニは約2億年前からその形をほとんど変えることなく、生きた化石と呼ばれる動物の代表となっています。

大きさは50～60cmで、上から見ると、ほぼ半円形の前体と呼ばれる大きな殻、後方に鋭い針を多数備えた六角形の後体、後ろに長くつきだした尾剣（びけん）の3つの部分で構成されています。裏返すと前体には5対の脚があり、さらに複雑な器官が密集しています。

生息域は遠浅の砂浜が広がる海岸で、5月になると干潮時には干潟にできる水深1～3mの湾内に入ってきて、ゴカイや貝類などを食べます。産卵は6～8月の間に行われ、昼夜2回の満潮時に、メスの上にオスが乗ったつがいで浅瀬に現れ、5～10回に分けて卵を産みます。産卵後約50日で卵はふ化し、幼生は小判型をしていて、三葉虫型幼生と呼ばれています。成熟に10年かかると考えられ、この間の生態はいまだに明らかになっていません。

かつて、瀬戸内海や、九州北部一帯の沿岸に広く分布していましたが、現在ではその生息域を狭められ、佐賀・大分・福岡県などの一部の海岸でしか、繁殖が確認されていません。海岸地帯の整備や開発につれて、産卵のための砂浜や幼生の育つ豊かな干潟などが減少し、いまやカブトガニは絶滅の危機に立たされています。

（出典：環境省、いきものログ）

雷山(らいざん)955m



羽金山(はがねやま)900m



17:03

END